

2024 年 6 月 3 日

通貨ニュース

インド：インド総選挙～モディ体制 3 期目入りが確実～

既報の通りインドでは、6 月 1 日にかけて総選挙(下院)が開催された。一斉開票は 4 日に行われるが、1 日夜には出口調査が開始され、すでに総選挙の大勢が判明している。本欄では、選挙結果を簡単にレビューしたい。なお、以下のすべての情報は、日本時間 2 日の午前 6 時時点で入手可能な情報に基づいている。

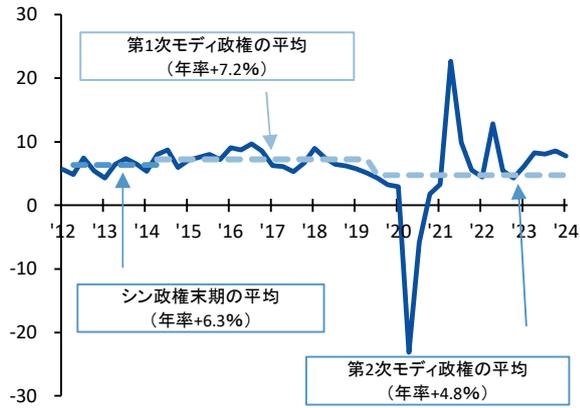
調査会社によって集計結果は若干異なるものの、ロイターが複数の調査会社の集計を纏めた報道によると、543 議席のうち、インド人民党(BJP)を中心とする国民民主同盟(NDA)が 353～401 議席を獲得したとされている。地元テレビ局などが実施した選挙直前の世論調査においては、NDA が 399 議席を獲得すると予測されていたので、やや予測は下回った格好だろう。なお、前回 2019 年の選挙時には、NDA は 353 議席、うち BJP は 303 議席を獲得していた。よって、事前の予想はやや下回った可能性が高いものの、2019 年よりも NDA の獲得議席は増加した可能性が高いと評価できる。改憲に必要な 3 分の 2 を獲得した可能性も十分にあることが、何よりも重要である。モディ首相も、勝利宣言を行っており、今までの実績が有権者の支持を集めた、との認識を示している。

ちょうど、選挙開催期間最終盤には 1～3 月期の実質 GDP 成長率が公表されており、前年比+7.8%と市場予想の同+7.0%を大きく上回った(図表 1)。モディ政権 2 期目の平均の成長率は、同+4.8%を記録しており、パンデミック期と重なった割には高い伸びを堅持している。近年では、インフレや失業問題、強権的な姿勢で批判を浴びる場面もあるが、国民の 8 割を占めるヒन्दゥ教徒の支持を集めるべく「ヒन्दゥ至上主義」を掲げた政策を推進してきたこともあり、国内における支持基盤は盤石であった。上記の通り、経済成長が順調だったことも、政権の支持を集めたと考えられる。今後は、BJP が公約に盛り込んだ高速鉄道拡張計画や、インド初の五輪招致に加え、貧困家庭向けの電気料金無料化政策などが実際に実行されるか、期待が高まるだろう。また、既に今年度の暫定予算案が公表されており、財政健全化路線が打ち出されているが、これが当初想定通りに機能するかも注目したい。

金融市場への影響としては、目先では、4 日の一斉開票と公式の選挙結果公表を待つ展開となるだろう。当然ながら、出口調査と最終的な結果に乖離があることは珍しくないため、市場の注目度は高い。総選挙中、インド金融市場はやや神経質な時間帯も見られ、Sensex 指数は軟化する場面もあった(図表 2)。一時的ではあるが、海外投資家による大規模な資金流出が見られたことも報じられている。無事に総選挙を通過したことによる安心感に加え、公式の開票結果が出口調査並みかそれ以上に NDA に有利な結果となれば、特にインド株式にとっては買い材料になるだろう。

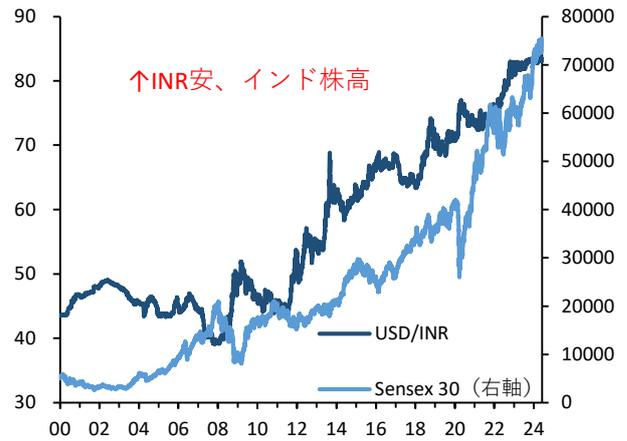
金融市場部
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

図表 1:各政権の実質 GDP 成長率(前年比、%)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 2:INR 相場と Sensex 指数の動向



出所: Macrobond、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。